



# 優 秀 賞

設計部門



## 宮ノ丘幼稚園

高野ランドスケーププランニング株式会社

赤嶺太紀子・金清典広・高野文彰・上田悦路・村田周一・山地弘起

### 「むらのような幼稚園を目指して」

この幼稚園は都市部にありながら、敷地は森、草原、水辺という豊かな自然を包括しています。幼稚園は子どもの暮らしの場であり、この時期に培った感性が将来の成長に大きく影響するため、心身の健やかな成長を支える環境が重要です。

宮ノ丘の教育理念と結びつく「感性と野生と知性を育む場」の具現化に向けて、人と自然がお互いに良い関係で影響あって生きる里山や、年齢や目的の異なる様々な人が集い支え合うコミュニティが想起され、これらを含む「むらのような幼稚園」を目指すことになりました。



### 4つの基本的な考えと、

#### むらのような幼稚園づくりへ向けたプロセス

「野生・健康を育む」「感性を育む」「創る喜びを知る」「人とつながりを育む」

これらを4つの基本的な考えとして、計画・設計・工事を進めました。並行して全てのフェーズで教員や保護者、園児、地域住民、大学生らを含む参加型プログラムを取り入れ、多くの人々が幼稚園に集い、愛着をもち、ともに子どもを育む場の実現に近づくように進めました。

### 作品概要

作品名 宮ノ丘幼稚園  
 所在地 北海道札幌市西区宮の沢490-11  
 発注 景盛学園宮ノ丘幼稚園  
 設計 高野ランドスケーププランニング株式会社 (マスタープラン、ランドスケープ) 株式会社象設計集団(建築)  
 設計協力 海外からのインターンシップ学生(カナダ、スコットランド、レバノン、フランス、モンゴル、カナダ、韓国)、札幌近郊の大学生・専門学校生ボランティア  
 監理 高野ランドスケーププランニング株式会社  
 施工 原田建設株式会社、株式会社住計画FURUTA、大成ロテック株式会社、株式会社横山造園、有限会社かわい造園、左官・久住章氏  
 設計期間 2006年8月～2008年11月 第一期  
 2014年6月～2014年12月 第二期  
 2019年4月～第三期継続中  
 施工期間 2007年11月～2008年11月 第一期  
 2014年8月～2014年12月 第二期  
 規模 2.4ha  
 主要施設 ランドスケープ:丸馬場、沢の遊び場、丘のグレンデ、菜園、グラウンド、グリーンハウス(プール、人工芝グラウンド、大型バス駐車場)、ピオトープ池、駐車場、ゲート  
 建築:東棟、中央棟、水辺のコテージ、アフタースクール棟、馬小屋

### 作品評

札幌市郊外の手稲山の山裾部に立地する老朽化した幼稚園のリニューアル事業である。応募者はプロジェクト全体を統括し、基本構想から実施設計まですべてを担当した。

少子社会を踏まえて、新しい幼稚園像を構築するコンセプトを「むらのような幼稚園」とし、教師や地域を巻き込んで幼稚園のマスタープランを作成した。敷地は、「森」、「草原」、「水辺」に区分して、斜面地の自然環境を壊さないように建物を分散配置している。改修事業を通して、ワークショップを企画・運営して、遊び場づくりなどを通じて教職員に野外活動に対する意識変化をもたらし、森の整備や花壇整備等の活動を通して親土のコミュニティ育成の効果があった。園児が帰宅する午後は小学生や大人向けのプログラムを行い、地域における幼稚園のポテンシャルの拡大を図っている。

新たな幼稚園のビジョンを掲げて、空間のデザイン、運営のデザイン、コミュニティのデザインにまでいたる意欲的な取り組みである。わが子をこのような幼稚園に通わせられる親は幸せ者である。



①上流はピオトープ、下流は遊びのための沢。幼稚園職員と一緒に施工したことで先生自慢の遊び場になった  
②沢遊び場をワークショップで整備 ③先生が積極的に外で授業を始める ④広いスロープの草地は子どもたちの日常の遊び場  
⑤丘は冬にはスキーのグレンデになる ⑥⑦保護者と森の手入れワークショップにより活動の場を広げる ⑧子どもたちもいきいきと森で遊ぶ

### 自然環境をベースにした敷地計画

敷地は斜面地に位置するため、分棟にしてこの敷地の3つの自然的特徴のある場所にそれぞれを配置することにしました。これによって子どもたちが日々の自然の変化を体感じ、屋内と屋外を行き来し、積極的に自然と関わる環境を創りだしています。屋内外に行き来が増えることは冬季の雪の中の移動を考えると勇気が必要とする選択でしたが、体温調節機能が強くなり、子どもたちはたくましく育っています。そして多様な自然との関わりから現代に失われがちな「野生」「感性」を育てています。

### 宮ノ丘のさらなる発展を目指して

第1期工事完了後の10年間で、幼稚園は新しい環境をベースにプログラム開発と人材育成に力を注ぎ、着実に成果を上げてきました。今では幼稚園以外の目的でこの場所を訪れる子どもも増え、屋外環境の利用頻度は高まり、活動内容も自然に親密な宮の丘の個性ある活動に育っています。そこで現在はさらに高いレベルで環境を活用した教育に取り組むため、「第3期」として新たな計画に取り組んでいます。日々の活動と森の環境が一層強く結びついた場づくりを目指していく構想を進めています。

設計部門